

ごみ焼却施設の設備紹介

受入供給設備



ごみ計量機
ごみ収集車で運ばれてきたごみの重さを測ります。



プラットフォーム
計量完了後、プラットフォームからごみをごみピットへ投入します。



ごみピット・ごみクレーン
ごみピットに貯留したごみはごみクレーンで攪拌してから、焼却炉に投入します。ごみピットには5.2日分のごみを貯留することができます。

中央制御室



この施設の頭脳といえるところです。施設全体を24時間監視・制御しています。

膜煙突の特徴



- 1. 膜材で軽量化**
膜煙突は従来の鉄筋コンクリート製と比較すると軽量で耐震性が向上しています。
- 2. 光触媒膜**
膜材表面の光触媒の効果で空気をきれいにします。植物の光合成を促す「葉緑素（クロロフィル）」も光触媒のひとつです。

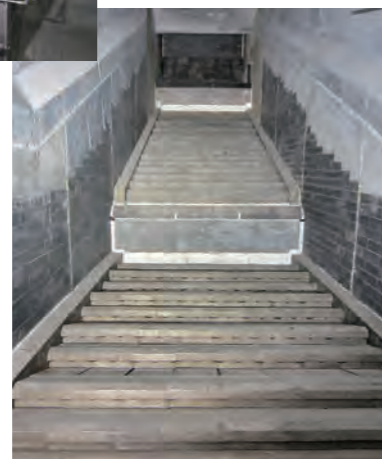
燃焼設備



焼却炉
燃焼温度850℃以上、ガス滞留時間2秒以上を確保し、ダイオキシン類の発生を抑制します。



炉内ようす



灰出設備



磁選機
ごみに含まれる鉄を回収し有効利用します。



飛灰処理設備
ろ過式集じん器で回収された飛灰を薬剤処理し、重金属の溶出を防止します。

排ガス処理設備



無触媒脱硝設備
焼却炉にアンモニアガスを噴霧し、安定的に窒素酸化物を除去します。



節炭機（エコマイザ）
排ガスは高温のため、冷却して温度を調節し、ダイオキシン類の発生を抑制します。またボイラに給水する水温を高くし、ボイラ効率を高めます。



ろ過式集じん器
排ガス中の有害物質（ばいじん・ダイオキシン類・塩化水素・硫酸酸化物・水銀）を除去します。

余熱利用設備



ボイラ
ごみの焼却により発生する熱を利用し、高温・高圧の蒸気を発生させます。



蒸気タービン発電機
ボイラで発生した蒸気で発電しています。最大2,110kWの発電を行う能力を持っています。



外部温水供給装置
隣接する山城総合運動公園に温水を供給します。